



第83号

Let's Sports!!

平成20年3月1日
 発行
 財団法人 稚内市体育協会
 会長 門間 松美
 〒097-0027 稚内市富士見4丁目
 稚内市総合体育館内
 (財)稚内市体育協会事務局
 TEL 28-1111/FAX 28-1112
 E-mail :taikyo@wakkanai-sports.or.jp
 URL http://www.wakkanai-sports.or.jp

皆喜んで楽しんでいただけたらいい プログラムで

平成二十一年は創立五十周年

財団法人稚内市体育協会は、平成二十一年の来年が満五十年の記念の年になります。前身となる「稚内市体育協会」が昭和三十四年に発足以来、半世紀にわたり稚内市のスポーツ界をリードし、輝かしい歴史と実績を重ねてきました。

●三専門部会で検討

実行委員会では「式典・祝賀」「記念誌編集」「事業・企画」の三専門部会に分かれて、次の事業メニューの詳細を検討しています。

◆式典・祝賀部会

日程および表彰や式典内容等の検討

◆記念誌編集さん部会

「五十年のあゆみ」の資料収集および編集方針、配布などの検討

◆事業・企画部会

できるだけ多くの市民が楽しめるプログラムとして「招聘・市民参加型事業」の検討

●メインイベントはプロ野球イースタンリーグを要請

多くの市民が楽しめるプログラムとしては、収容人数が見込める会場や施設面を考慮して、プロ野球が喜ばれるものと、現在、北海道日本ハムファイターズ(藤井代表取締役社長)に、市内声問の大沼球場を会場



にイースタンリーグの公式戦開催を要請しています。日本ハム側からも、稚内開催に前向きな返答が示されていることから、今後、事業・企画部会において詳細にわたる協議を進めることとしています。

●後世に引き継ぐ「青少年スポーツ振興基金」

実行委員会では、各部会が検討している事業のほかに、五十年を節目に、後世に引き継ぐ事業を検討しています。現在検討されている事業は、主として青少年のスポーツ振興をめざす「基金の創設」です。本事業は、地域スポーツ振興のため、市民の皆さんからの協賛金を募ることで

節目の年を迎えるにあたって、多くの市民の皆さんにも楽しんでいただけるプログラムを展開することを基本に、昨年(平成十九年)から準備委員会を立ち上げ、ある程度のメニューを挙げ、さらに昨年十二月には実行委員会を組織して実施の具体的な協議を進めています。

体協事業を後援している「稚内スポーツ振興協賛会」の支援の下に基金を積み立てると同時に、スポーツ少年団をはじめ青少年のスポーツ活動を積極的に進めようとするものです。

例えば、優秀な選手や指導者に対して、ハイレベル(全日本、アジア、世界、オリンピックなど)な大会の視察や研修会に派遣するほか、団体の運営や競技力の向上のために必要な支援を検討しています。

●その他のプログラム

記念事業メニューには、他にも友好都市とのスポー

ツ交流をはじめ市民参加型のスポーツイベントも検討しています。

また、同年に五十周年を迎えるバスケットボール協会が「日本リーグ」を、バレーボール協会が「Vリーグ」の誘致を希望していることなども考慮して開催の可能性を調査してまいります。



全道優勝の快挙

【高校柔道】

札幌市で開催された全国高校柔道北海道大会の女子52キログラム以下の部に出場した稚内出身の大谷美結(みゆ)さんがみごと全道チャンピオンに輝きました。



美結さんは、知る人ぞ知る3世代にわたる

企業や大学、クラブなどのスポーツ合宿誘致を進め、市民をはじめ、青少年にハイレベルの競技を提供することで、体協本来の目的の柱となる競技力の向上を図ると共に、流動人口の増加や滞在による地域経済に貢献できることから、合宿の誘致を積極的に進めます。



「スポーツ合宿の里」をめざします

財団法人稚内市体育協会では一昨年から、稚内スポーツ振興協賛会の資金的バックアップを得て、合宿誘致を実施しています。

こうした折に、昨年から北海道では三番目となるプロスポーツに参入したバスケットボールクラブの「レラカムイ北海道」が総合体育館を拠点に一週間の合宿を張りました。これを

市民の皆さんからの、合宿に関する情報やアイデアをお待ちいたしております。

弾みとして、稚内市を「スポーツ合宿の里」として売込みを強めることとしました。受け入れ体制の第一弾としては、助成額の見直しはもとより、快適な競技場の確保や整備が必要です。

稚内市(教育委員会)では、平成二十年度の当初予算にトレーニング器具の充実やフロアワークス整備費を計上しています。体育協会では、各協会の合宿誘致の協力はもとより、誘致による体育館の占有使用に対する理解を求め、民間の宿泊施設や、飲食業者などへの協力を呼びかけ、合宿誘致に対する全体的な歓迎ムードを盛り上げようと考えています。

柔道一家・大谷末太郎さんの孫娘で柔道連盟大谷貴美さんの二女。

おじいちゃん・お父さんらが中心となつて指導する「稚内南部柔道スポーツ少年団」で5歳のころから技を磨き、早くから期待されていました。稚内南中学校卒業と同時に、お父さんも選手として活躍し、恩師のいる札幌の東海大四高校に進学し、更に心技体を磨きました。今大会では団体戦の先鋒としてもチームを引っ張り、団体優勝を勝ち取る原動力となっています。なお、3月に東京で行われる全国大会では、個人種目は無いものの、チームの先鋒として全国の強豪に挑みます。